

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

自ら気付き興味が深まる／わかば保育園

今年度は、子どもたちとどのような栽培活動を予定されていますか？今回は、保育者自身も子どもの頃に栽培した経験のある「アサガオ」を栽培した事例です。保育者は育て方や植物のことを知っているだけに、子どもの疑問や関わる姿から浮かんでくる“助言したい言葉”を飲み込んでいる場面があります。気付きの場面を逃さず見取ることで、次々と発見したことを保育者や保護者に伝える子どもたちの姿をご紹介します。



● 発見！発見！—アサガオ—／5歳児

✦ 場面1 芽が出た／5月上旬

ポットに種を蒔き、数日が過ぎた頃に芽が出始めた。
子どもたちのつぶやきが聞かれる。

- 「帽子をかぶっているみたい」（種の皮の部分が子葉に乗っている様子を見て）
- 「ハサミみたいな葉っぱだね」（子葉の開いた様子から）
- 「真ん中に何か出ている」（小さな本葉の芽を見て）



保育者の読み取り・関わり

発芽したばかりの子葉（双葉）に種の皮が付いたままの様子や開いた2枚の子葉の姿を見て、その様子を子どもの生活経験と重ねて的確に捉えて表現している。また、本葉となる小さな芽が中心から出ていることを捉えていたり、今まで経験してきた（見てきた）花が咲いたアサガオを思い起こしたりした時に、この小さな芽があのようなになるのだろうか、と今の様子を見つめている。

こうした、観察からその子どもなりに感じ取ったことを、保育者は聞きっぱなしにしないで、認め、他の子どもに返していくことで自信がつくとともに、他の子どもも自分も「発見しよう」と、一層やる気が湧いてくるように思われる。

✦ 場面2 茎に毛のあるのとないのがある

1つのプランターに3人分の苗を植えてあるので、茎が伸び始めると隣の友達との茎と一緒にになってしまうことが起き始めた。登園してきたAちゃんが、「あれっ、〇〇ちゃんのが絡まっちゃってる」と、しばらく手を出さずに見ていたが、「こっちでしょ」と、自分のアサガオの蔓をフェンスからそっとほどいて、横のフェンスの棒に巻き付けようとしていた。しかし、手を離すと、スルッとほどけて落ちてしまう。「どうして？」と、もう一度巻き付けようとするがまたほどけてしまう。今度は、しっかり巻き付いている茎の様子を見て、「毛があるからなのかなあ？」とつぶやく。

数日後、アサガオを見ていた子どもたちが次のような発見をした。

Sちゃん：「僕のは、てっぺんまで伸びているけど、Nちゃんのは小さい。僕のは毛がないけど、Nちゃんのは毛がいっぱい出ている」

Hちゃん：見比べてから「本当だ。毛があるのは小さいね。毛のないのは、トゲみたいなものがあるよ」

保育者の読み取り・関わり

子どもたちには話さなかったが、今年のアサガオの種を2種類蒔いた。普通にある日本のアサガオと西洋種のヘブンリーブルーである。日本のアサガオには、茎に毛があるがヘブンリーブルーには毛がなくてトゲのようなものがある。ヘブンリーブルーは昼頃まで咲いている。このような違いを子どもたちはどう感じ取っていくだろうかという思いであった。成長していく中で、友達のアサガオとの違いに気付き、さらに見つめようとするを期待してのことであった。登園時にその違いをしっかりと発見して、蔓の巻き付いた様子から、滑り落ちない訳を自分なりに意味付けていたのである。このように、保育者が「よく見ましょう」とか、「こういう違いがあるでしょ」と示さなくても、子ども自身が見つめようとする場を構成し、子どもの発見の姿や言葉を認めてあげることで、子どもは発見の喜びをもって、興味の対象に一層注目することが分かった。

❖ 場面3 今日咲いた花よりしぼんだ花の方がいい色になる／8月上旬

夏休み明けにはたくさんの花が咲き、子どもたちは、花を採って色水遊びに夢中になった。朝咲いた花を水の入ったビニール袋に入れてバシャバシャと振って色を出して楽しんでいる。

花がなくなった頃に来たBちゃんが、「これでもいいや」と、前日咲いてしぼんでいる花を袋に入れて振ってみた。「この方がいい色になるよ。ほら、見て、見て」と、自分の発見を仲間知らせようと目を輝かせていた。

咲き終えた花びらを使って色水を作って遊ぶ子どもが多い中で、しぼんだ花を口にくわえて、息を吹き込んで楽しむCちゃんがいた。「どうしたの？」と保育者が聞くと、「こうやると、膨らむんだよ。ほら」と、やってみせるが、思うように膨らまない。いくつか取ってやってみる中で、先が少し膨らむものがあった。「ほら、膨らむでしょ」と、自慢げに話していた。



保育者の読み取り

色水遊びに適した花びらがその日に咲いている花ではなくて、前日に咲いた“しぼんだ花”は色がよく出ることや、しぼんだ花に息を吹き込むと膨らむことなど、遊びを工夫してアサガオに親しみを増していったように思われる。

❖ 場面4 明日咲く花はソフトクリームみたい／8月下旬

Dちゃんが、前日降園する時には咲いていなかった所に、きれいなアサガオが咲いていることに気が付き、下から上の方まで目を走らせていた。そのうちに、「きっと、これが明日咲くんだ」と、つぶやいた。「どうしてそう思ったの？」と、保育者が聞くと、「すこし、色が付いて、膨らんでいる」と答え、「ソフトクリームみたいで面白いね」と、楽しそうに話しながら、園舎に入っていった。

その日の降園時に、迎えに来た母親に、「これ、明日咲くよ」と、朝に見付けたソフトクリーム型のつぼみを示して話していた。

保育者の読み取り・関わり

毎日、朝夕に自分のアサガオを観察できるように、玄関先にプランターを設置したことで、自分のアサガオを見つけてきた。翌日咲くと思われるつぼみを見つけて「ソフトクリームみたい」と、渦巻き状になったつぼみを表現している。

❖ 場面5 咲いた後に丸いものがある／8月末

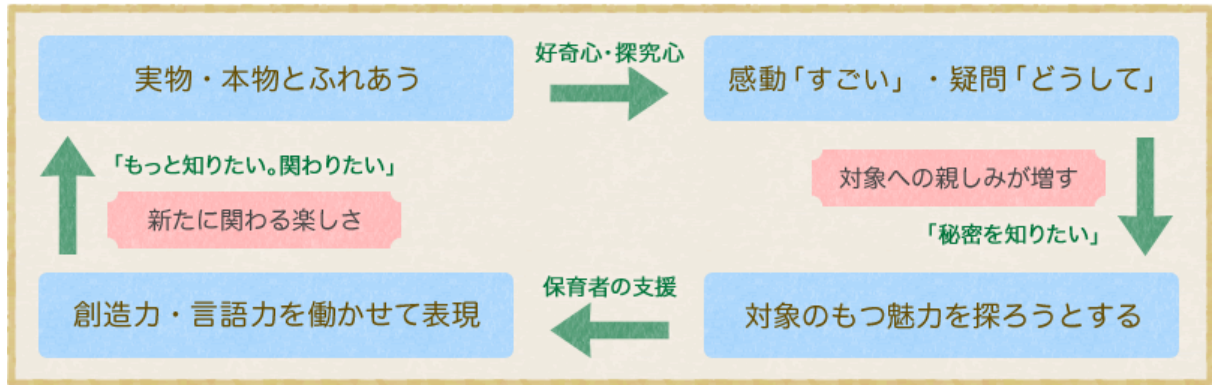
降園時に「先生、大変。私のアサガオに、何か丸いものが付いている！」と、Hちゃんは悲しそうな顔をして話しかけてきた。保育者は「どれどれ、教えて」とHちゃんの苗の所と一緒にいくと、「これなんだけど」と、“咲き終えた後に膨らんできた種”を示した。横では「何だろうね？」と迎えに来た母親がニコニコしている。そこで、門にいた保育者は「本当だね。何だろうね。これからどうなるか見ていこうね」と話し、その日は別れた。

2・3日後、登園時に、「どうなった？」と、聞くと、「前より、膨らんできた。角みたいのものもある」と、“種”が大きくなってきたことに驚きその変化を捉えていた。

保育者の読み取り・関わり

アサガオの種がどのようにできるかを知らないHちゃんにとって、咲き終えた後にできた膨らみは不思議であった。それをあえて教えない保護者、保育者の在り方が、今後完全な種となったときにHちゃんが自分で納得していく姿に繋がるのではないかと。

✦ 様々な気付きや発見をする子どもたちの姿から読み取った「『科学する心』の芽を培うとは」



無断転載を禁ず。引用する場合は右記を必ず明記願います。「(C)公益財団法人 ソニー教育財団 ソニー幼児教育支援プログラム 幼児教育保育実践サイト <http://www.sony-ef.or.jp/sef/preschool/>」